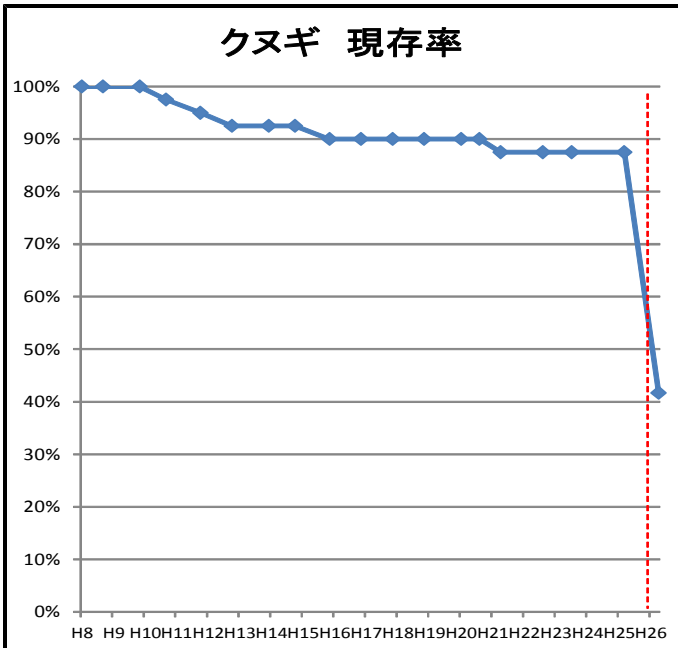
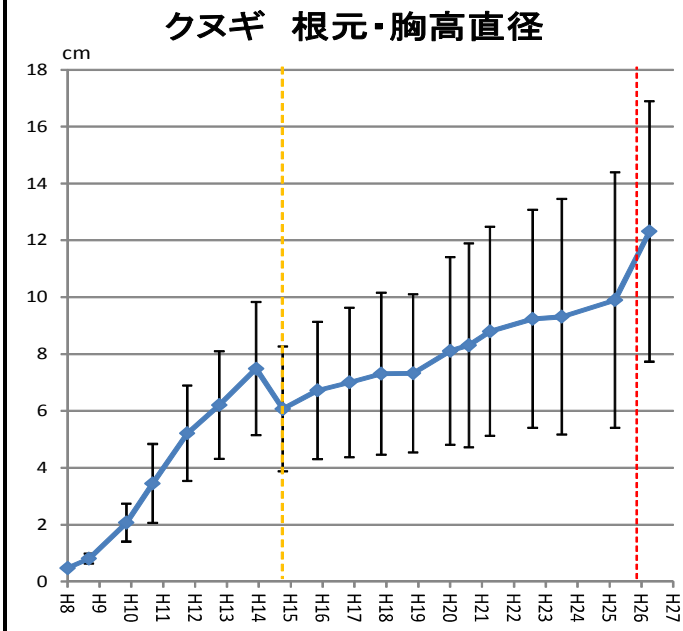
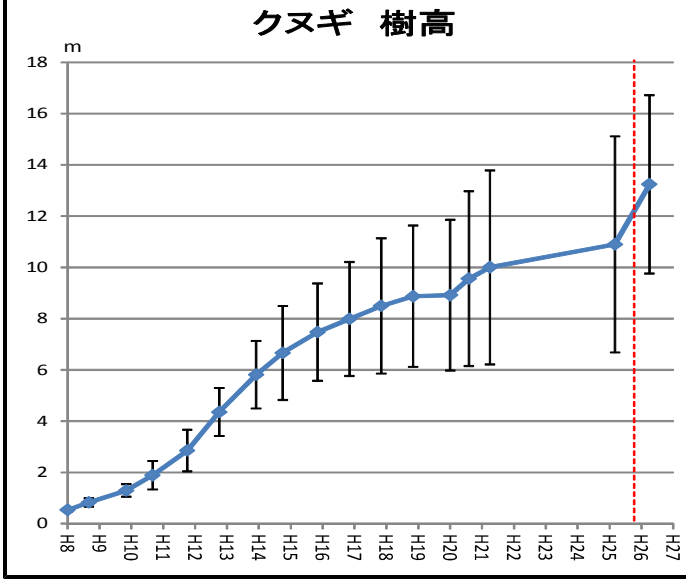
樹種名	クヌギ
科　目	ブナ科
学　名	*Quercus acutissima*
分　布	本州、四国、九州、国外では朝鮮半島等のアジア北部に自生している。
樹木特性	陽樹であり、雑木林の代表的樹種であるが、天然林には見られず、人里近い場所に生育地が限られる。 伐採すると切り株から萌芽し、萌芽力が強いことから、萌芽更新を繰り返すことにより椎茸の原木等の材料として繰り返し採取している。
用　途	器具・船舶・木炭材(佐倉炭)、しいたけ原木として利用。
植栽本数/面積 （植栽密度）	151 本／ 0.04ha （3,500 本／ ha）
特　徴	【樹　形】 落葉広葉樹で樹高は 15~20m になる。樹皮は暗い灰褐色で、厚いコルク状で縦に割れ目ができる。 葉は互生、長楕円形で周囲には鋭い鋸歯がならび、葉は薄いが硬く、表面にはつやがある。新緑・紅葉が美しい。紅葉後に完全な枯葉になっても離層が形成されないため枝から落ちず、2 月くらいまで枝についていることがある。 花は雌雄別の風媒花で 4 月から 5 月頃に咲く。雄花は黄色い 10cm ほどの房状に赤っぽい小さな花をつけ、受粉すると、実を付け翌年の秋に成熟する。 木炭の原料、器具材、染料等用途が広い。 堅果は直径約 2cm と大型で翌年の秋に成熟する。陽樹であり深根性樹種であり、日当たりの良い適潤肥沃が適地である。実は他のブナ科の樹木の実とともにドングリとよばれる。ドングリの中では直径が約 2cm と大きく、ほぼ球形で、半分は椀型の殻斗（がくと）につつまれている。殻斗（がくと）のまわりにはたくさんの鱗片がつく。この鱗片が細く尖って反り返った棘状になっているのがこの種の特徴でもある。実は渋味が強いため、そのままでは食用にならない。
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 13m 程度となっている。
被　害	野兎・鹿の被害は特に無かった。 植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。（延べ駆除本数：9 本）



【現存率】
植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。
平成 14 年度以降の目立った枯死は見られない。
林内の照度調整を図るため平成 20 年、平成 23 年度に本数調整伐を実施した。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 41.7%であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



【根元・胸高直径】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 12.31 ㎝であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
※　オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



【樹　高】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 13.23m であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》
コナラに比べて樹皮が厚く乾燥しやすいため管理に注意を要するが、しいたけの発生量は多く品質も良好なことから九州地方の主要なしいたけ原木である。